

第8章「データを層別することによって交絡を制御する」専門用語

stratification

層化。交絡変数のカテゴリごとに別々に曝露と疾病についてのクロス集計表を作るのが基本。疫学辞典第3版の説明は以下のとおり。

年齢群や社会経済状態のような特定の基準に従って、1つの標本をいくつかの二次標本に分ける過程、もしくはその結果。層別に結果を解析することにより交絡変数の影響を調べることができる。例えば、肺癌と喫煙の関係はよく知られているので、都市の大気汚染と肺癌の関連を検討するためには、喫煙の影響を考慮せねばならない。したがって、まず対象集団を喫煙状態によって複数の層に分ける。これにより大気汚染と肺癌の関連を各層内で別々に評価することができる。層化は交絡の影響を制御するのみならず、修飾作用 (effect modification) を検出する方法としても用いられる。前記の例では、層化することにより大気汚染と肺癌の関連に及ぼす喫煙の影響を検討することが可能となった。

pooling

プーリング。要約。層による差がないとき、各層のデータをまとめてしまい、1つの標本として扱うこと。pooled estimates は要約推定量 (例えば、マンテルヘンツェルの要約オッズ比とか)。

stratum-specific estimate

層別の推定量

residual confounding

残差交絡。層化後も層内に残っている交絡。

test of heterogeneity

不均質性の検定。どの層でも2つの変数が独立であるという帰無仮説を検定する、コ克蘭=マンテル=ヘンツェルのカイ二乗検定はこれに当たる。

test of homogeneity

均質性の検定。不均質性の検定の裏返し呼び方。各層で効果が一樣であるという帰無仮説を検定する。例えばオッズ比についての Woolf の検定はこれに当たる。

standardization

標準化。要するにカテゴリ別の値の重み付き平均である。

大別すると直接法 (標本データのカテゴリ別の割合やリスクや率に基準集団の人口構成に従って重みをつけて平均する)、と間接法 (基準集団のカテゴリ別の割合やリスクや率に対象集団の人口構成に従って重みをつけて平均する) の2つの方法がある。

standard

基準。標準と約すこともあるが、standardization の standard population は基準集団とか基準人口と約す（比較の基準となる重みをもつ人口構成の人口集団）。

assumption of uniformity of effect

効果の一様性の仮定。

natural

自然の

latent

潜伏する

SMR

standardized mortality ratio なら標準化死亡比。間接法標準化の過程で出てくる。standardized morbidity ratio なら標準化罹病比または標準化罹患比。

standardized rate difference

標準化率差

standardized rate ratio

標準化率比。疫学辞典にも、「分母と分子の人口が同じ（基準）人口の分布に対して標準化された率比のこと」とある。